



レベル	I (新人看護職員)	II (新ラダー I)	III (新ラダー II)	IV (新ラダー III)	V (新ラダー IV)
京都鞍馬口	<p>・医療施設において指導の下で安全な看護が提供できる</p> <p>・社会人、専門職業人であることを自覚する</p>	<p>・医療施設において基本的な看護が実践できる</p> <p>・メンバーシップを発揮し、リーダーシップを理解できる</p>	<p>・対象にあわせた看護が実践できる</p> <p>・部署においてリーダーシップが発揮できる</p>	<p>・理論、知識、経験を統合した看護を実践できる</p> <p>・部署の問題解決に向けて主体的に行動できる</p>	<p>地域における自施設の役割とニーズを理解し自施設の目標に向けた行動ができる</p>
レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
ニーズをとらえる力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる</p>
	<p>【行動目標】</p> <p><助言を受けながら> □ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる</p>	<p>□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる</p>	<p>□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえた必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる</p>	<p>□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面に必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる</p>	<p>□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる</p>
実践例	<p><助言を受けながら> □患者の訴えや観察をもとに身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面からの情報収集ができる ・身体面:患者情報からフィジカルアセスメントを行い、患者の異常の早期発見ができる ・精神面:患者の言葉や態度・表情から精神状態を知ることができる ・社会面:退院後の生活について患者や家族から情報を得ることができる スピリチュアル:患者の心のよりどころや信念を知ることができる</p>	<p>□自立して患者の訴えや観察をもとに身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面からの情報収集し、患者の課題を捉えることができる ・身体面:フィジカルアセスメントを行い、異常の早期発見ができる ・精神面:患者の言葉や態度・表情から精神状態を把握できる ・社会面:退院後の生活について患者や家族から意図的に情報を得ることができる ・スピリチュアル:意図的に患者の心のよりどころや信念を知ることができる □<助言を受けながら>ケースレポートを完成し発表することができる</p>	<p>□診療記録など決められた枠組みに沿った情報だけでなく、個性を踏まえた多職種から患者に必要な情報収集ができる <例> ・生活習慣など患者の生活の細部まで捉える ・患者・家族の希望を踏まえ、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる □正確なフィジカルアセスメントができる <例> ・患者から症状の訴えがあった場合、原因や体内で起こっている現象を捉えることができる □情報収集をもとに、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面などあらゆる情報から統合的に、優先度の高いニーズを捉えることができる</p>	<p>□患者の疾患予防や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報収集ができる <例> ・疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測し、患者の役割(家庭内や仕事)や疾患への思いを意図的に焦点化して確認できる ・収集した情報を統合してニーズを捉えることができる □正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者の状況の原因を予測し捉えることができる <例> ・患者から症状の訴えがあった場合、あらゆる原因を想定し体内で起こっている現象を捉え、意図的に観察しアセスメントできる</p>	<p>□複眼的な視点から迅速に患者の状況を判断し、複雑な状況や多様なニーズに必要な介入を判断できる <例> ・疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測し、患者を取り巻く人々が持つ情報の重要性を理解する ・患者・家族(患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズを捉えることができる □地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき施設等に働きかけることができる</p>
	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>助言を得ながら、安全な看護を実践する</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する</p>	<p>ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する</p>	<p>様々な技術を選択・応用し看護を実践する</p>	<p>最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する</p>
<p>【行動目標】</p> <p><助言を受けながら> □看護手順に沿ったケアが実施できる □ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる</p>	<p>□ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる</p>	<p>□ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の潜在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる</p>	<p>□ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる</p>	<p>□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる</p>	
実践例	<p><助言を受けながら> □看護手順に沿ったケアができる □重症患者のケアは、指導者と共に実践できる □新人看護師においては、新人看護職員研修ガイドラインに沿って目標達成ができる □基本的な看護計画を展開できる □カフティルバスに沿った看護ケアができる □急変時の処置の流れを知り、できることを探して実践できる</p>	<p>□看護計画を追加・修正した展開ができ、自立した看護ケアができる □重症患者や医療依存度の高い患者に対して自立してケアの実践ができる □ケアの際に必要な情報を得て、状況に応じた援助ができる <例> ・患者の状態を観察・把握して必要に応じて時間調整や疼痛コントロールを実施してからケアを行うことができる □患者・家族に指導する場合は、パンフレットを用いて一般的な内容の説明ができる □急変時は、指示されたケアを責任を持って実践できる</p>	<p>□患者の個性に合わせて適切なケアができる <例> ・入院前からの習慣を考慮した生活行動援助を計画し実践する □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる</p>	<p>□患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるために、幅広い選択肢からの提案やケアの実践ができる <例> ・疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践できる □患者・家族に指導する場合は、予測的な視野を持ちながら、患者等の反応に応じて段階的に説明することができる <例> ・患者の生活の中で起こりうる問題や症状を予測し患者の思いや理解度を確認しながら説明できる ・患者の生活習慣や価値観・希望を考慮し、幅広い知識から様々な手段を提案できる □急変時には、原因や今後の展開を予測しながら患者・家族(患者を取り巻く人々)への対応と準備ができる</p>	<p>□どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる □コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる □ケアの開発のための努力を維持して行っている □患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、QOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる <例> ・疾患の予後と治療による影響により、希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観・尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提案できる ・患者の生活習慣や価値観・希望を考慮し、幅広い知識から様々な手段を提案できる □急変時には、原因や今後の展開を予測しながら患者・家族(患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる</p>
	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>関係者と情報共有ができる</p>	<p>看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる</p>	<p>ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる</p>	<p>ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる</p>	<p>ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす</p>
<p>【行動目標】</p> <p><助言を受けながら> □ケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □チームの一員としての役割を理解できる □ケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる</p>	<p>□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる</p>	<p>□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについての意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる</p>	<p>□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる</p>	<p>□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる</p>	
実践例	<p><助言を受けながら> □看護チームの一員であることを理解し、日々の患者へのケアを、他の看護師と行う。常に自らの持つ情報を他の看護師に連絡し、患者の状態について報告し、判断できないことや経験のない処置やケアについて相談する □多職種(医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士等、ソーシャルワーカー、ケースワーカー、緩和ケアチームRSTチームなど)の役割を理解する □カンファレンスに参加し、発言することで、自らの持つ情報を提供して関係者と共有する</p>	<p>□患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種の協力の必要性に気づくことができる □関係者の疾患の現状、検査結果、治療方針を把握し、患者の訴えや受け止めている思いを医師に伝える。必要な情報をチームリーダーやチームメンバーと共有し、看護の方針を確認できる □カンファレンスに参加し、積極的に発言することで、患者の思いや希望等の必要な情報を関係者と共有する</p>	<p>□患者の個別的なニーズに対応するために、関係者と協力し多職種連携を進める。患者の現在ある状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力を求めることができる。たとえば、退院支援の際、患者の生活を思い浮かべて、キーパーソンは誰かのような条件であれば退院できるか、どの職種と連携すればその条件を達成できるか、という調整ができる □入院時から、退院後の生活場所(在宅、高齢者介護施設等)について、多職種に提案する等調整を行う □協働する看護師に積極的に情報共有する。治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる。定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催する。患者や家族(または患者を取り巻く人々)が治療に協力できるように働きかける</p>	<p>□診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる □多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との調整ができる。たとえば、退院支援において、患者の退院後の生活を予測した上で、訪問看護の調整について、窓口と方法を理解していたり、多様な退院後の生活の場について、主体的にケアマネジャーと連携する □多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し患者に関わることでありうるような連携を促進する □カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる □患者に対し、起こりうる課題を予測して専門・認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整することができる</p>	<p>□連携にあたっては全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる。多職種を中心的に巻き込み、各職種が役割を効果的に発揮できるように、各職種の役割を明確化し、チームの目標を共有し結束して関わることでありうるような連携を促進する。カンファレンスにおいては、中心となつて各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる □看護チーム内には、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行う □多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる □施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる</p>
	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる</p>	<p>ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる</p>	<p>複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる</p>
<p>【行動目標】</p> <p><助言を受けながら> □ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる</p>	<p>□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる</p>	<p>□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる</p>	<p>□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる</p>	<p>□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる</p>	
実践例	<p><助言を受けながら> □患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を知る <例> ・患者や家族(または患者を取り巻く人々)の不安を察し、思いを聞くことに努める必要があると気づき、思いの表出を促すことができる □患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望をケアに関連づける <例> ・患者や家族(または患者を取り巻く人々)から希望を聞き、その希望をリーダー看護師等に伝えることができる</p>	<p>□患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望を意図的に確認する <例> ・患者と家族(または患者を取り巻く人々)から希望を聞いた際には、その希望の背景や理由についても確認することができる □患者や家族(または患者を取り巻く人々)の思いや考え、希望をケアに関連づける □説明に対する患者や家族(または患者を取り巻く人々)の認識と医療者の認識とのずれに気づき、追加の説明等調整する</p>	<p>□患者や家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に必要な情報を提供する <例> ・療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族(または患者を取り巻く人々)に提案するなどして意思決定支援を支える □患者と家族(または患者を取り巻く人々)にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちや思いを聞き出し、患者や家族(または患者を取り巻く人々)の現在ある状況を多職種に代弁することができる □患者と家族(または患者を取り巻く人々)がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、物理的だけではなく精神的にも寄り添う</p>	<p>□患者と家族(または患者を取り巻く人々)の気持ちを引き出し、意思決定プロセスを促進させることができる。患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることで、意図的な知識から、様々な提案を提示することで、意思決定プロセスを促進させる □患者や家族(または患者を取り巻く人々)、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整する □複雑な意思決定場面において、患者と家族(または患者を取り巻く人々)を尊重し寄り添い続けることができる □患者と家族(または患者を取り巻く人々)の意思決定に関わるゆらぎに寄り添い支えることができる</p>	<p>□患者と家族(または患者を取り巻く人々)が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることで、意図的に医療チームを動かす、意思決定プロセスを支援できる □患者と家族(または患者を取り巻く人々)の思いは日々変化していることを念頭に、多角的な視点を尊重し寄り添い続けることができる □複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を説教的に活用し、調整できる</p>

看護の核となる実践能力

レベル		I (新人看護職員)	II (新ラダーI)	III (新ラダーII)	IV (新ラダーIII)	V (新ラダーIV)
組織的役割遂行能力	レベル毎の定義	JCHO及び自施設の理念と使命を理解し、組織の一員としての自覚を持って行動する	組織の一員としての役割を理解し、所属部署の目標を意識して行動する	所属部署の目標達成に向けて主体的に実践する	看護部の目標達成に向けて役割を遂行する	自施設の目標達成に向けて組織改革に必要な建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する
	【レベル毎の目標】	□地域社会における自施設の役割・機能を知る □自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける	□組織における自己の役割を理解しチームの一員として業務が遂行できる	□自部署の目標達成に向けてリーダーとしての役割を遂行できる	□看護部の目標達成に向けて、組織横断的にリーダーシップを発揮できる	□地域・近隣の医療や社会福祉・住民と連携し、自施設の目標達成に向けてリーダーシップを発揮できる
	安全	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □医療安全体制について理解ができ報告・連絡・相談ができる □医療事故防止対策マニュアルを遵守した行動がとれる	□医療安全体制に基づき報告・連絡・相談ができる □医療事故防止対策マニュアルを遵守し安全に留意した行動がとれる	□医療事故防止対策のマニュアルを活用し患者の個性を捉えた安全対策の実施に向けてリーダーシップを発揮できる	□部署内の安全対策についての課題を捉え効果的な行動がとれる	□自施設の安全対策についての課題を見出し問題解決に向けチームで行動できる
	感染	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □感染対策の理解ができる □院内感染対策マニュアルを遵守した行動がとれる	□感染対策の理解ができる □院内感染対策マニュアルを遵守した行動ができる	□院内感染対策マニュアルを活用し、患者や感染経路に応じた感染対策の実践に向けてリーダーシップを発揮できる	□部署内の感染対策についての課題を捉え効果的な行動がとれる	□自施設の感染対策についての課題を見出し問題解決に向けチームで行動できる
	情報管理	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □JCHO情報セキュリティポリシーに沿って情報を取り扱うことができる	□JCHO情報セキュリティポリシーに沿って情報を取り扱うことができる	□JCHO情報セキュリティポリシーに沿って状況に応じて判断し行動できる	□情報管理における自部署の課題を見出し問題解決に向けて行動できる	
	経営	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □物品を適切に選択しコスト意識をもって業務ができる □医療材料・消耗品・備品の修理や破損時に上司に報告ができる □1日のタイムスケジュールを考えて行動できる	□物品を適切に選択しコスト意識をもって業務ができる □医療材料・消耗品・備品の修理や破損時に上司に報告ができる □1日のタイムスケジュールを考えて行動できる	□診療報酬と看護業務の繋がりに理解できる □自部署の物品管理に関する課題を見出し解決に向けた行動ができる	□診療報酬の改定に合わせ自部署の体制や仕組みを整えることができる	□効果的に診療報酬算定するために病棟編成について提言できる
	災害	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □災害発生時の患者・職員の安全確保・緊急連絡方法を理解できる(消火設備・避難経路) □災害発生時の初期行動がとれる □防災訓練に参加し消火設備の使用方法が理解できる	□災害発生時の患者・職員の安全確保・緊急連絡方法を理解できる(消火設備・避難経路) □災害発生時の初期行動がとれる □防災訓練に参加し消火設備の使用方法が理解できる	□緊急時マニュアルを活用し、状況に応じた行動がとれる	□災害対策における自部署の課題を見出し、問題解決に向けて行動できる □自部署での防災訓練の企画・運営ができる	□大規模災害における自施設と地域の課題が明らかにでき、役割が提言できる
	労働安全衛生	【行動目標】 ＜助言を受けながら＞ □生活のリズムの変化に関する体調不良について相談できる □ハラスメントについて理解できる □健康診断を受けることができる	□ストレスについて自覚し、適切な対処ができる □ハラスメントについて理解し、相談窓口を知る □心身の変化に対する、健康づくりができる	□ライフワークにあわせた健康づくりができる □ハラスメントについて報告ができる	□労働安全衛生法規を理解し、職場内の問題を明確にし、課題に取り組む	□国内の健康で安全な職場づくりに関する指針やツールを活用し、職場環境づくりに取り組むことができる
自己教育・研究能力	レベル毎の定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究的に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる	単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主として研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割が遂行できる
	【レベル毎の目標】	□必要な知識・技術を主体的に学習し、自己の学習課題を指導によって発見することができる □部署や院内で行われる研修に積極的に参加できる □看護実践に必要な文献検索やe-ラーニングの視聴ができる	□日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得に向けた学習活動を展開することができる □自身の看護ケアを振り返り、事例検討ができる □プリセプターを経験し、後輩とともに学習する	□実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする □組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描くことができる □看護実践者として後輩に支援的役割を果たせる □看護の質を向上するために研究結果を活用できる □院外で行われる研修に積極的に参加できる	□組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像を描ける □専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組む □後輩のロールモデルとなり学習を支援する □課題解決や看護の質を向上するために研究的に取り組む □現任教育の受講・看護倫理Ⅲ、退院支援Ⅲ(訪問看護師と同行訪問)、リーダーシップⅢ(看護師長の1日シャドウ)をすべて受講している。または同等以上の外部研修の受講。(事後課題含む)	□看護師としての自己の方向性を明確にし、キャリア形成のための学習を継続的に取り組む □専門領域や高度な看護技術等について自己の学習活動を推進し、他者を育成する中で成長する □看護単位における教育的役割が遂行できる □研究活動を実践する □他者の研究活動を支援する □西日本地区事務所主催の看護職員研修のファンリテーター、院外研修の受講、学会発表(共同研究者は含まない)をすべて満たしていること。また、外部講師などの活動がさらにあるとよい